

# 東京青高同窓会

今回の号は、電子版で発行することになりました。(電子版出の発行に至る経緯の詳細は5ページにて)

次回の第48回総会・懇親会は5月10日(日)に上野精養軒で開催いたします。講演は鈴木 祐太氏(青高51回)で、演題「経営目線で見た青森の課題と生き残り戦略」です。(詳細は4ページ 企画幹事あいさつをご覧ください。)

## 東京青高同窓会 会長 あいさつ

東京青高同窓会 会長 永田雅之(青高31回)

令和8年を迎えられ、東京青高同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度のはじめとして、令和7年2月28日・3月1日に開催された青森高校同窓会入会式・卒業式に参加し、卒業生の皆さんへお祝いの挨拶と東京青高同窓会の紹介をさせていただきました。239名の卒業生が新たな世界へ希望を胸に抱き旅立たれました。また、青森高校では初めてのAO入試での東京大学進学者をはじめとして優秀な卒業生があまた新しい未来へ挑戦していく姿に頼もしさを感じました。そして、5月11日(日)には、第47回総会・講演会・懇親会を上野精養軒で開催いたしました。対面での再開から2回目でしたが、当日は約230名の会員の皆様にご参加を頂き、大盛会となりました。旧友や同窓との再会、世代を超えた交流、そして多くの笑顔が溢れておりました。当日は、青森高校高橋英樹校長、青森高校同窓会沼田廣会長、青森市西秀記市長に来賓としてご参加を頂きましたこと改めて御礼申し上げます。また、当番幹事の50回生と受付幹事の35回生の皆様のご協力にもこの場を借りて感謝申し上げます。

令和8年を迎えましたが、人口減少・少子高齢化は歯止めが利かず、緩やかな回復傾向にあると言われておりますが諸物価高騰・消費の鈍化はまだ続いている社会情勢です。当会におきましても、同窓会会員の減少、同窓会費収入減、コロナウイルス以降の懇親会参加者減少により、会の運営が大変厳しい状況となっております。そこで誠に心苦しいのですが、会員の皆様にお詫びと報告がございます。まず、現在ご覧いただ

ている会報につきまして、経費削減策として今年度の印刷配布を取りやめております。電子版での閲覧および印刷は可能となっております。また、総会・懇親会の通常開催を行うために、懇親会参加費を従来の八千円から一万円へ値上げさせていただきます。会員の皆様にはご不便をお掛け致しますが何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。令和8年度の第48回総会・講演会・懇親会は、5月10日(日)11時より上野精養軒で開催することになっております。本年度の当番幹事は51回生、受付幹事は36回生となっております、すでに企画や準備に取り掛かっておりますので、盛大で楽しめ、絆を深められる懇親会になるものと大いに期待しております。皆様の多数のご参加をお待ちしております。



今年は60年に一度の丙午であり、勢い・成長・新しいものが生れ出る年と言われております。東京青高同窓会は2年後に創立50周年を迎えます。記念総会に向けて、「第50回記念総会特別委員会」の体制や記念事業などは総会にて報告させていただきます。また、会員管理の簡素化・業務負荷軽減と会員増強が必須課題となっておりますが、新たな会員管理システムの導入も検討しており、同窓会への関心・参加を高めるために、IT化・電子化による発信強化を継続して行って参ります。

結びに、伝統ある東京青高同窓会を未来永劫継承していくためにも、役員・幹事・委員の皆さんと協力し、

東京青高同窓会の発展に貢献して参りたいと思います。  
会員の皆様におかれましては、これまでと同様に、ご

厚情とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 青森高校同窓会 会長 あいさつ

青森高校同窓会会長 沼田 廣 (青高 19 回)

東京青高同窓会の皆様には日頃より本校同窓会へのご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、青森では、令和 7 年 8 月 9 日 (土) 夕刻よりホテル青森において同窓会総会及び懇親会が開催されました。その際、東京青高同窓会の永田雅之会長にご来賓としてご出席いただき、改めて感謝申し上げます。今回、物価高のため入場券を 7 千円に再値上げせざるを得ませんでした。例年並みの 500 名を超える参加者があり大変賑わいました。今年、令和 8 年 8 月 8 日とラッキーナンバーが三つ揃う良き日の開催となります。東京の青高同窓会の皆様も旧友や恩師との再会を果たす機会ですので、是非ご参加下さい。

また、本校同窓会では、在校生が進路や職業を考える際の参考にしてほしいと、同窓生の中から特に活躍されている方を講師としてお願いし、講演会を行っています。今回は、10 月 16 日に青高 29 回生の九州大学大学院理学研究院教授の奈良岡浩さんを招聘し、「研究すること：宇宙から生命」と題する講演でした。奈良岡さんは、はやぶさ一号が小惑星「イトカワ」より持ち帰った微量の試料を分析された方として有名です。はやぶさ一号のプロジェクトマネージャーは弘前高校出身ですが、この青森県コンピの活躍が素晴らしいと思いました。

さらに、エポックとして、青高 4 回生の故吉川キヌさんから 5 億 3 千 4 百万円という多額の寄付があり、後援会の方で受け取りました。在校生への奨学金に使ってほしいという故人の遺志がありましたので、これを社債と国債で運用し、その利息を奨学金に回し持続可能な奨学金制度として今年度から実施することになっています。

結びになりますが、東京青高同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



青高 29 回

硬式野球部 53 年卒

トキ デンタルクリニック

土岐 孝雄

〒981-3132 宮城県仙台市泉区将監 1 3 - 7 - 5  
TEL 022-771-1288

## 青森高校校長 あいさつ

### 同窓の絆とともに歩む母校

永田会長はじめ、東京青高同窓会の皆様におかれましては、平素より母校の教育活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

去る 5 月に上野精養軒で開催された総会・懇親会に出席いたしました折、会場を包む皆様の圧倒的な熱量と、母校への溢れんばかりのエールを肌で感じ、深い感動とともに帰路についたことが、今も鮮明に記憶に残っております。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、本校は令和 7 年 3 月に第 75 回生 236 名を送り出し、4 月には新たに第 78 回生 240 名を迎えまし

た。生徒たちは「自律自啓」「誠実勤勉」「和協責任」の綱領のもと、先輩方が築かれた「高いレベルでの文武両道の伝統」を継承し、自らの可能性の追求と夢の実現に向け、日々研鑽を積んでおります。

教育活動においては、探究学習の一層の深化を図るとともに、第二期の三年目を

青森高校校長 高橋英樹



迎えたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組を充実させております。本年も、海外研修を通じたグローバル教育の推進や、理系女子育成プログラムなど、既存の枠を超えた多様な学びを展開しております。

また、部活動等においても、まさに「文武両道」を体現する活躍が見られます。漕艇部及びフェンシング競技のインターハイ出場に加え、全国高等学校総合文化祭へは県内最多の八部門で出場いたしました。なかでも放送委員会は、ビデオメッセージ部門で文部科学大臣賞（全国1位）を受賞するという快挙を成し遂げました。さらに、地学オリンピックでは本校生徒が日本代表として世界大会に出場し、銀メダルを獲得いたしました。こうした果敢な挑戦と成果は、私たちに大きな感動と誇りを与えています。

8月に開催した学校説明会では、代表生徒が中学生に向けて「大変なことでも挑戦し続けられるのは、支え合える仲間が青高にはいるから」と語っていました。青高の真の魅力は、学習環境の充実にとどまらず、切磋琢磨の中で育まれるこの「絆」にこそあるのだと、改めて強く感じました。そしてこの絆が、卒業後も同窓会という形で全国に、特にこの東京の地において力強く受け継がれていることに、深い感慨を覚えています。

青森から遠く離れた首都圏において、力強い組織力を持つ東京青高同窓会は、現役生徒や教職員にとって、まさに「希望の羅針盤」です。皆様が各界の第一線でご活躍される姿、そして故郷を思うその情熱こそが、後輩たちの志を高く掲げる何よりの道標となっております。

令和7年度の幕開けに際し、私は生徒たちに「高い志」を持ってほしいと伝えました。その実現のためにも、多感な時期に好奇心を揺さぶる体験や多様な出合いを提供できるよう、学校として一層尽力してまいります。

結びに、東京青高同窓会の皆様のますますのご健勝とご発展を祈念するとともに、今後とも母校への変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

## 青高 31 回

東京青高同窓会 会長

青森高校硬式野球部 OB 会 甲田クラブ会員

永田 雅之

## 受付幹事 あいさつ

東京青高同窓会第36回期の代表幹事を務めております塩山と申します。

同窓会会報42号の発行お慶び申し上げます。また、今まで東京同窓会を支えて頂きました役員、事務局、幹事、各回期の皆様に厚く御礼申し上げます。次回の東京同窓会総会では、私たち第36回期が受付幹事を担当いたします。皆様よろしくようお願い申し上げます。

早いもので私たち36回期が東京同窓会での企画幹事を担当してから10余年が経ってしまいました。この間、コロナ禍による対面での総会開催中止等もあり、卒業回期と幹事年度の関係もあやふやとなっていたところ、「どうやら36回期が2026年度の同窓会総会で受付幹事を担当することになる」ことが分かったのは2023年の半ばであったと記憶しております。その後、企画幹事年の12月15日の忘年会で将来の再会を期し

て記した寄せ書きを出発点として連絡を開始したものの、転勤、家庭の事情等により東京圏から転出された方も多数いらっしゃいました。改めて、つてを頼って総会に向けた再始動の飲み会の開催にこぎつけたのは2023年12月27日水曜日の夜、丸の内のビル地下街の居酒屋に集まったのは6人でした。その後、皆様にお声がけ頂き、現在、東京、青森を合わせて約20人の同期の方に総会参加のお申し出を頂くまでになりました。協力をお申し出の皆様、どうも有難うございます。

この紙面をご覧頂いている皆様の中には、青森高校を卒業後、県内に進学、就職して県を支えて頂いている方もいらっしゃるかと思います。私自身は、高校卒業後、県外に進学、就職し、遠く離れておりますが「青森のことがわかり、青森のために行動できる。その様な人間が東京にいる。それは非常に重要なことであ

る。」と、ある先人に言われたことを胸に同窓会活動に参加しております。

これまで36回期で幹事を担当された皆様をはじめ、同窓会に参加・協力して頂きました同期の皆様が沢山いると思います。この紙面を借りて御礼申し上げます。それでは皆様、5月10日に上野精養軒で開催される同窓会受付でお会いできることを楽しみにしております。



## 企画幹事 あいさつ

### 第48回東京青高同窓会 に寄せて

企画学年 第51回生 野村 亮

本年の東京同窓会懇親会において、私どもの学年は、事務局の皆さまの運営体制のもと、第二部の講演会および第三部懇親会の一部企画を担当させていただきこととなりました。微力ではありますが、諸先輩方から受け継いできたこの会の良き伝統を大切にしながら、幹事一同、心を込めて準備を進めています。

昨年、私たちの代は母校同窓会の幹事学年を務めました。私自身は東京からの関わりとなり、運営の中心にいたわけではありませんが、その過程で二十数年ぶりに多くの同級生と再会する機会を得ました。久々に顔を合わせ、ワイワイと語り合いながら物事を進めていく中で、発言の一つひとつの濃さや、自然と役割を担い合いながら前へ進んでいく遂行力、調整力、そしてひとたび団結したときに生まれる爆発力のようなものを、随所に感じました。青高を離れて久しく忘れていた、高校時代のあの空気——優秀な仲間にも囲まれ、刺激を受け続けていた感覚が、鮮やかによみがえった瞬間でもありました。私は当時、青高の末席を汚したに過ぎませんが、同級生や諸先輩方と接する中で、この学校が長年にわたり育ててきた人の力、その層の厚さを、改めて実感しました。

そして今回、東京同窓会の企画幹事を拝命するにあたり、この青高ならではのエネルギーが、世代を超えて自然に交わり、互いに刺激し合える場をつくりたい——その思いを、強く抱いています。私たちの代は昭和57年生まれ…昭和末期の空気を知る最後の世代でもあります。この役割も、まもなく平成生まれの世代が担っていくこととなります。そこでは、同窓会の捉

え方や関わり方も、これまでとは少しずつ異なるものになっていくのだと思います。東京同窓会は、年齢や立場を超え、同じ原点を持つ者同士が集い、新たな気づきや学び、そして活力を得られる、極めて貴重な場です。その価値を大切に守りながら、次の世代へとどうつないでいくか。時代の節目に差しかかる今、私たちはその問いと、これまで以上に丁寧に向き合う必要があると感じています。

SNSの普及や交通網の発達により、地元や友人との距離は、以前よりも格段に近くなりました。近い将来、同窓会の運営を担う世代の顔ぶれも大きく入れ替わっていく中で、価値観や人とのつながり方も、さらに多様化していくことでしょう。人口減少という大きな流れの中、会員数や参加者数の減少という課題にも直面する今、懇親会を単なる懐旧の場にとどめるのではなく、世代を超えた交流の中から、新たな価値や学びが生まれる時間として磨き上げていくことこそが、いま企画学年に託された役割なのではないかと考えています。

今回の企画では、第二部において、青森を題材とした講演の時間を設けました。講師には、本校卒業生で

青高 35 回  
株式会社スーパーオフィス  
代表取締役

五日市 文雄

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2丁目49-7

池袋パークビル1階

あり、国内外の企業経営に携わってきた経験を持つ経営コンサルタントをお招きし、経営の視点から見た青森県の課題と可能性について語っていただく予定です。母校、そして故郷の未来を改めて考える機会として、皆さまにとっても示唆に富む時間となれば幸いです。

また、第三部の懇親会では、例年の慣例に倣い、地元青森の酒や酒肴をご用意する予定です。毎年、企画学年が頭をひねりながら工夫を重ねてきた大切な時

間でもあり、私たちの代としても、青森らしさと親しみを感じていただけるひとときとなるよう準備を進めています。

この懇親会が、再会の喜びにとどまらず、新たなつながりと発見が生まれる場となり、次の一年への活力へとつながることを願っております。

## 特集「総会懇親会の収支構造の変化と、運営合理化(電子化)推進について」

近年の総会懇親会をめぐる収支構造の変化と、それに対応するために幹事会が進めております運営合理化(電子化)の取り組みについて、ご報告申し上げます。

### ① 収支構造の変化について

総会懇親会の収支は、基本的に参加費によってまかなわれるよう計画を立てております。しかしながら、近年は参加者数・会費納入者数がともに減少した結果、総会懇親会の赤字を補填する余裕が失われつつあります。

以前は、懇親会で多少の不足が生じた場合にも年会費収入で補填することができておりました。ところが会費納入者数の減少により、そのような対応が難しくなっておりまして。また支出面においても、会場費・料理代等についてはこれまで可能な限り削減を重ねてきた経緯があり、「これ以上の費用削減は難しい」という水準に達しております。その結果、参加者が想定を下回った場合には、その分だけそのまま総会懇親会の赤字の直結するという構造が強まっております。

今年度は参加者数が予算想定を下回り、相当額の赤字が見込まれる状況となっております。

### ② 懇親会参加費の改定(8,000円 → 10,000円)

2025年9月の幹事会において、2026年5月の総会懇親会から参加費を8,000円から10,000円へ改定することが承認されました。

この改定は、参加者・会費納入者の減少が続く中、支出の削減余地もすでに限界に近い状況を踏まえ、総会懇親会を今後も通常どおり開催し続けるための、やむを得ない調整としてご理解いただければ幸いです。会員の皆様にご負担をおかけすることを誠に心苦し

く存じますが、何卒ご賢察の上、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### ③ 会報の電子化について(2026年3月発行分)

会報の発行は引き続き行います。ただし、紙による印刷配布は行わず、電子版での提供に切り替えることといたします。

2025年度の当会の支出削減策を検討した結果、まとまった金額として削減が可能なものとして、会報の印刷費が主な対象となりました。「会報を休刊する」という選択は、活動記録を会員の皆様にお伝えするという観点から困難と判断し、「印刷はしないが電子版として発行する」という方針を選択いたしました。本件は2025年6月の幹事会にて、2026年3月発行分より電子配信とすることが決定されました。

なお、この措置は当該年度に限ったものとして整理されており、翌年度以降は予算状況等を踏まえた上で改めて検討いたします。

「電子版の読み方がわからない」というご不安をお持ちの方もいらっしゃるかと存じます。そのため、総会資料の送付に際しまして、会報の閲覧方法や目次をまとめたご案内を同封する予定でございます。

### ④ 会員情報管理の電子化(ぜぶらる)について

この取り組みは、単なる経費削減にとどまらず、「同窓会の運営を次世代へ円滑に引き継いでいくための基盤づくり」として位置づけております。

現状、会員の住所・連絡先等の管理は担当者による手作業が中心となっており、情報の精度が安定しにくく、引き継ぎの負担も大きいという課題がございます。また、会員の皆様ご自身が住所変更や送付希望の意思を直接反映できる仕組みがなく、事務局を介さなければ

更新されないという不便もお掛けしております。

こうした課題を解決するため、クラウド型の会員管理サービス（SaaS）の活用を検討してまいりました。多くのサービスは月額課金方式であり、年に一度会費を集める本会の運営形態には合いにくい面がありましたが、調査の結果、会員情報の管理については費用負担が生じないサービス（ゼブラル）があることが判明し、段階的な導入を進めることといたしました。

まずは会員情報の管理をゼブラルへ移行し、会費のオンライン納入については、運用が軌道に乗った後の次のステップとして検討してまいります。会員の皆様にとりましては、ご自身で住所変更や送付の設定を行えるようになるという利点もございます。

導入スケジュール（案）といたしましては、2026年5月～2027年3月を仮運用期間とし、2027年3月以降に本格運用へ移行する予定です。正式な運用開始に

あたりましては、役員会・幹事会での承認手続きを経て進めてまいります。

今回ご報告いたしました変更は、いずれも「変えること自体が目的」ではございません。会費納入者・参加者の減少が続く中、同窓会を将来にわたって存続させ、次の世代へ引き継いでいくために、幹事会として選択した方向です。

インターネットの操作に不安をお持ちの方もいらっしゃるかと存じますが、丁寧なご案内を心がけてまいりますので、どうかご一緒についてきていただけますと幸いです。

会員の皆様には、引き続き「総会懇親会へのご参加」、「年会費へのご協力」、そして「電子化へのご理解」を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 50 回記念総会に向けて：特別委員会の設置と活動日程

本会は 2027 年に第 50 回総会という大きな節目を迎えます。幹事会では、この節目にふさわしい記念事業を実施すべく、特別委員会の設置について 2025 年 9 月の幹事会で提案され、了承されました。

### 【過去の記念総会を振り返って】

本会ではこれまで、第 30 回・第 40 回の節目にあたり、それぞれ特別委員会を設置し、通常の総会とは別に記念事業を立案・実施してまいりました。

### 【第 50 回特別委員会の設置について】

こうした先例に倣い、幹事会では第 50 回記念総会特別委員会の設置を予定しております。特別委員会を組織した上で記念事業の立案・実施に取り組み、会員の皆様とともにこの 50 年の節目を意義あるかたちで迎えたいと考えております。

### 【記念事業の候補について】

現時点では、会員の皆様からの賛助金を募り、その財源をもとに以下のような事業を候補として検討しております。

- ・母校への記念品贈呈・植樹
- ・卒業生への記念品贈呈基金の設立
- ・ウェブサイトの整備・刷新

### ・会報記念号の発行

これらはあくまで現時点での候補であり、特別委員会において会員の皆様のご意見も広く伺いながら、具体的な内容を詰めてまいります。「こんな事業ができるのではないか」というご提案がございましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

### 【ご参加・ご協力のお願い】

第 50 回記念総会を実りあるものとするためには、会員の皆様のお力添えが何よりの支えとなります。特別委員会の活動日程や参加方法については、決定次第、改めてご案内申し上げます。

半世紀の節目を、会員の皆様とともに心豊かに祝うことができますよう、どうかご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

青高 58 回

一般社団法人あおつな創出プロジェクト  
理事

大澤 徳

## 第 50 回記念総会へ向けたスケジュール案 ※2025 年 9 月幹事会資料に基づく

2025 年 9 月：幹事会、特別委員会設置について提案、準備開始を了承

この間、特別委員会の体制、方針等を準備

2026 年 3 月：幹事会、特別委員会の体制等について幹事会で承認

2026 年 5 月：総会（48 回）、特別委員会設置を承認（賛助金はここで依頼する）

この間：特別委員会の活動開始、記念事業の検討

2027 年 3 月：幹事会、50 回記念事業を承認（このときに賛助金も同時に周知）

2027 年 5 月：総会（49 回）、50 回記念事業を承認

この間：記念事業の実施（賛助金も）

2028 年 3 月：幹事会、記念事業報告承認、会報記念準備号を承認、発行

2028 年 5 月：第 50 回記念総会、記念事業報告を承認、事業実績を発表、祝賀する

2029 年 3 月：幹事会、会報 50 周年記念号を承認、発行